

復興ニュースでは… 広報あさくらの発行にあわせて、復旧・復興に向けた市の取り組み状況とその進捗状況などを随時お知らせしていきます。

✓朝倉市復興計画を策定しました

山・水・土、ともに生きる朝倉

市では、平成 29 年 7 月九州北部豪雨からの復旧・復興を目的に、復興計画を策定しました。

復興計画の策定にあたっては、延べ 24 回にわたり開催した地区別復旧・復興推進協議会などをおとして、市民の皆さんから数多くの貴重なご意見をいただきありがとうございました。

復興計画は、復興の理念を定めるとともに、今後取り組むべき復旧・復興の基本施策を体系的にまとめた復興の指針となるものです。

この復興計画を指針とし、市民に寄り添い、市民と一丸となって、一日も早い復旧と将来世代にわたって安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいきます。

■朝倉市復興計画の入手方法

①市ホームページからダウンロードできます。

「災害復興情報」（トップページ右上のオレンジ色バナー）→「朝倉市復興計画について」からダウンロード

②次の窓口で配布

- ・市総合案内（本庁 1 階）
- ・市総合政策課（本庁 3 階）
- ・朝倉支所市民窓口係（1 階）
- ・杷木支所市民窓口係（1 階）
- ・各地区コミュニティセンターおよびコミュニティ事務所
- ・応急仮設住宅（建設型）集会所

☎ 市総合政策課（内線 61-389）



策定前には、市復興計画策定委員会の三谷泰浩委員長から、復興計画（案）に関する意見書が提出されました



復旧計画策定にあたり 112 件のパブリックコメントをいただきました

パブリックコメントや住民説明会でいただいたご意見について、市の考え方とあわせてその一部を紹介します。

● 梅雨までに河川の応急対策をしていたきたい。



出水期対策は、プロジェクトチームを立ち上げ、関係機関と連携しながら取り組んでいます。今後、ハード、ソフト両面での対策を講じていきます。

● 災害公営住宅を早急に設計、着工してください。



来年夏の完成を目標に関係機関と協力しながら整備を進めていきます。

● 「これまでにいただいた主な意見」は、復興計画に明確に掲載すべきである。



ご指摘のとおり、貴重なご意見ですので、資料として復興計画に掲載しました。

河川・道路などの公共土木災害の復旧進捗状況

3月15日現在の公共土木災害査定件数は、345件（査定金額は約137億円）で、昨年内に予定していた全査定を完了しています。

年明けから復旧工事を順次発注していますが、出水期に向け、被災前の河道断面を確保するべく「埋塞河川」の河川掘削や生活道路の復旧を優先し、発注していきます。3月13日現在で、44件契約し、3月末までに追加で約15件発注予定です。出水期明けから本格的な復旧を進めていきます。

問 市建設課（内線 61-210）

国土交通省から 松末本村地区に強靱ワイヤーネット（仮設）が完成

杷木松末地区の赤谷川左支川（土師川）、本村川で、土石流による土砂や流木を捕らえるための「強靱ワイヤーネット（仮設）」が完成しました。

これにより、赤谷川への土砂や流木の流出を抑えるとともに、松末本村区の人家や道路の保全を図ります。引き続き、出水期に備えるための応急対策を行い、安全性を高めていきます。



※国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所ホームページで発表している内容を転載しています。

工事車両にご注意ください

復旧工事の本格化に伴い、市内各所でダンプカーなどの工事車両の通行が増加します。

工事発注に当たっては、受注者による交通法規の遵守など、交通安全の確保に努めますが、市民の皆さんも交通事故等には十分注意してください。特に、通学路は、学校関係者とも協議の上、通学時間帯における工事車両の通行制限などの安全対策を講じていきますが、工事現場には近寄らない、交通誘導員の指示に従うなど、保護者の皆さんからも児童生徒への指導をお願いします。



出水期対策プロジェクトチームから

杷木の上池田区で避難訓練

2/25

が行われました

杷木の上池田区で災害発生を想定した訓練が行われました。訓練では、約120人の住民が隣組単位で集まり、安全を確認しながら公民館まで避難する手順・経路を確認しました。

その後は、消防署員が豪雨災害の写真を使った講演や応急担架の作り方を実演。参加者たちはいざというときに迅速に動くための実りある訓練ができ、継続して訓練することの必要性を再認識しました。

市では、出水期に備えた対策のひとつとして、地区ごとの避難訓練の実施を検討しています。コミュニティや区を対象に、申込みに応じて、防災に関する疑問や学習したいこと、避難訓練のやり方などを説明します（詳細は8ページ）。皆さんが住んでいる地区でも、避難訓練の実施を考えてみませんか。

問 市防災交通課（内線 61-119）



▲ 隣組単位でまとまって避難するようす。
上池田区では、平成24年の災害を教訓に継続して訓練を行っており、今回、その成果が注目され「福岡県防災賞」を受賞しました。